

安心・安全のため豚ワクチン接種箇所（皮下）の選択肢を増やしましょう

～家畜改良センター本所における取組のご紹介～

豚のワクチンは種類が多く、獣医師の管理指導・指示のもと皆様の農場において日常的にワクチン接種が行われているものと思います。接種箇所については、豚の個体や体勢に応じて耳根部、腰部および臀部のいずれかを選択し実行しているのが現状ではないでしょうか。



(写真 1)

個体によっては、耳根部や臀部に刺入しようと試みると豚が極度に嫌がり時間を要してしまうことがあります。豚の苦痛の時間が長くなってしまふこと等からアニマルウェルフェア上問題となるケースもあり、かつ作業側からみても負担や危険を伴うことがあります。最悪、過敏な豚が暴れることで皮下に薬液が入らず効果が得られないことや、注射針を折ってしまい針の残留を危惧しなければならないこともあります。このように、現場においてワクチン接種箇所の選択は重要な課題となっています。

そこで我々は最近、ワクチン接種箇所の候補として GV1 を選びました。東洋獣医学でいう督脈の 1 番目の経穴（ツボ）で尾根と肛門の間の窪み中央を GV1（写真 1）といい、この部位が皮下接種する箇所として適正かどうかについて検討してみました。

方法は繁殖豚を対象にワクチン（豚パルボウイルス不活化、日本脳炎不活化）を GV1（写真 2）と耳根部に接種し、接種後の抗体値を部位別に比較し、かつ接種前後の行動について観察したというものです。

その結果、接種部位の違いによる抗体値に統計的な有意差はなく、免疫応答は同等であると考えられました。また接種時の行動は GV1 のほうが耳根部に比較し、首振り・後ずさりなどの回避行動をとらない傾向があることが分かりました。



(写真 2)

繁殖豚の耳根部は成長段階で何回も接種された経験から、豚の前方に注射器を持って人が立つと、頭の良い豚は痛みの記憶から接種前後に頸振りや後ずさりをして回避行動をとることが多いものと推察されます。GV1 は後ろに立って刺入するものの豚に驚かれることは少ないように感じました。

以上から GV1 は作業負担の軽減とアニマルウェルフェアに貢献できる接種箇所であると考えられます。貴農場においてワクチンを皮下接種する際の候補として試みていただけたら幸いです。

（参考） 蓮田ら 「豚における経穴（GV1, GV14）ワクチン接種法の検討」

- ・ 第 11 回家畜感染症学会学術集会にて発表（2021 年 12 月 5 日）
- ・ 家畜感染症学会誌第 11 巻 1 号（2022 年 4 月）に抄録掲載